

# 紅白 夢の競演

さまざまな国の“赤”と“白”

会期＝2022年12月9日(金)

↓  
2023年2月14日(火)

開館時間＝10:00～16:30

12月16日(金)、1月20日(金)は、19:00まで開館、入館は閉館の30分前まで

休館日＝日曜日・祝日・12月28日～1月5日

入館料＝一般 500円、大高生 300円、小中生 200円

障がい者とその付添者1名は無料

ギャラリートーク＝開催は未定です。

ホームページでご確認ください。

※混雑時には入館をお待ちいただくこともございます。

※状況により予定が変更される場合があります。

最新の情報はホームページでご確認ください。



文化学園服飾博物館  
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM

イザンギ・コート(部分) フランス バレンシアガ、1967年  
撮影:安田知水(文化出版局)

## 紅白 夢の競演

衣服の「色」は、着たときの印象を左右する大切な要素で、時に個人や民族の思想を反映したり、着る人の立場を表すなど、さまざまな解釈が与えられてきました。本展では、「赤」と「白」の衣装に注目し、日本の着物、アジアやアフリカの民族衣装、ヨーロッパのドレスなど、約40か国の衣装を出品します。赤は太陽や火、血の色に通じることから、生命力や力強さ、権威の象徴とされることもあります。また色味を持たない白は、透明感や清らかさを連想させることから、清潔、純真、神聖といった意味が与えられることもあります。それぞれの色が各国でどのような意味を持つのか、共通点や相違点などを探りつつ、世界各地の衣装の競演をお楽しみください。

### 慶びと哀しみの赤と白

人生の中での大きな慶びと哀しみと言えば、誕生、成年儀礼、婚礼、葬礼であることは万国共通と言っても過言ではないでしょう。節目の儀礼や祭礼では、日常とは異なる特別な衣服を身に着けますが、それらの衣服には赤と白が多く見られ、国や民族によって衣服に込められた想いが異なります。



白無垢 日本 1920-30年代(昭和時代初期)



ウェディング・ドレス イギリス 1840年頃



葬礼用喪衣:アディンクラ(部分) ガーナ 20世紀末

### ステイタス・シンボルとしての赤と白

衣服の色が着用者の富や権威などのステイタスを象徴することがあります。これは、主に染料や材料の希少性に関係するもので、国や地域によって何に価値を見出すかは異なります。赤色染料が貴重な地域では、鮮やかな赤の衣服を着用できることが、また、海から遠く離れた山岳地域においては、貝や珊瑚を身に着けることがステイタスとなります。



上衣:アンガルカ インド 1935-55年頃



上衣 台湾 20世紀初期



耳飾り:ハトリング フィリピン 20世紀初期

### コミュニティにおける赤と白

衣服の色は、コミュニティ内での着用者の社会的立場を示す役割も持っています。主に男性の社会的地位を示すもの、女性の未婚・既婚の別を示すもの、居住地や属するグループを示すものが見られます。コミュニティ内での自身の身分や立場を身なりで明確に示すことにより、秩序を保ち、争いごとを避けることができます。



前掛:イジョゴロ 南アフリカ共和国 20世紀中頃



ドレス:ソブ バレスチナ地域 1940年代



女性用衣装 グアテマラ 1980年代

### 折りの白

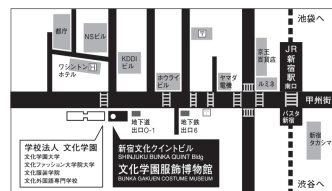
各国、地域では様々な宗教が信仰されていますが、その中で、白は重要な意味を持つ色として捉えられることがあります。白は、色相を持たない色であり、他の色とは一線を画した色と言えるでしょう。また、透明感や無垢をイメージさせる白は、しばしば、けがれのない清らかな心を表現します。



小窓衣 日本 1915年(大正4年)



女性用衣装 エチオピア 2012年



文化学園服飾博物館  
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル TEL.03-3299-2387

JR・京王線・小田急線新宿駅(南口)より徒歩7分

都営地下鉄新宿線/大江戸線/京王新線新宿駅(新都心口)より徒歩4分 地下道出入口O-1に隣接

学校法人文化学園

文化学園大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院/文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館

シークレット

【特別出品】

赤 vs 白 ハリウッド映画衣装対決!



「ロ・〇の〇日」(1953年)

「ド・〇キョウ」(1992年)

※当時の衣装スタッフによるレプリカ